

宇城郡市中体研

理事長 濱 久人

1 はじめに

宇城郡市中学校体育研究会は田中繁蔵会長（住吉中学校）を中心に 11 校の体育担当者 23 名で組織されており、11 校中 8 校は体育担当者が 1 名の小規模校である。

今年度、コロナ禍で例年どおりに研究は進まなかったが、昨年度の宇城郡市中学校体育研究会の研究を継続し、「分かる・できるを味わうことのできる保健体育学習のあり方」を追求した授業づくり（特に、「めあて」と「振り返り」を大切にしたい授業づくり）の実践を各校でしっかり取り組んでいこうと共通理解し、授業を実践してきた。

2 研究組織

会長 田中繁蔵（住吉） 理事長 濱 久人（網田） 授業実践部会 体育担当者（各校）

3 活動状況

会議	期日	内容
1 第1回教科等研	4月24日（金）	研究組織編成・テーマ決定・年間計画 授業者決定 →コロナウイルス感染症拡大防止により今年度中止
2 第2回教科等研	7月27日（月）	体育実技講習会 各部会活動 →コロナウイルス感染症拡大防止により今年度中止
4 第3回教科等研	11月9日（金）	授業研究会 →コロナウイルス感染症拡大防止により今年度中止
5 県中学校保健体育研究発表大会	11月27日（金）	芦北水俣市 会場：水前寺共済会館

4 研究テーマ

「主体的・対話的な学びを通して、分かる・できるを味わうことのできる保健体育学習の在り方」
～「めあて」と「振り返り」を大切に～

5 研究の概要

宇土市立網田中学校2年生 器械運動（マット運動）の授業実践から

【単元の目標】

マット運動の技ができる楽しさや喜びを味わい、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行ったり、条件を変えた技や発展技を行ったり、及びそれらを組み合わせたりすることができるようにする。

(1) 「めあて」設定の工夫について

単元のゴールを、「自らの試技を動画に残す」と設定し、単元全体の見通しを持たせ、「技をやってみる」（習得）、「技のバリエーションをひろげる」（活用）、「技の質をふかめる」（探求）の3つの構成で単元を分割して指導計画を組んだ。

「技をやってみる」の単元前半では、教師が提示したいろいろな場を試しながら、回転系や巧技系の基本的な動き（接点技群・ほん転技群、平均立ち技群）ができるよう、ポイントを押さえながら、教師がリードし、自分の課題を設定させ、その課題解決のためのめあてを持たせた。「技のバリエーションをひろげる」、「技の質をふかめる」の単元後半では、これまでに取り組んだ生徒の思いをもとにして、いろいろな場で楽しみながら、回転系や巧技系の基本的な動きに取り組み、動きを工夫したり、できそうな技に挑戦したりするように、自分の課題を設定させ、その課題解決のためのめあてを持たせた。その際、自分を客観的に見たり、友だちと協力して課題解決に向かえるよう、タブレットP Cの動画機能等を活用した。



(2) 「振り返り」の時間の工夫について

主活動中の個々の動きの振り返りの場では、適宜、ペアやグループでの対話活動の場を設けた。そこでは、それぞれが活動に取り組む中で、全体で確認したことやワークシートをもとに、自分の考えや思い、お互いの気づき等を伝え合って相互評価し合った。また、適宜、教師が生徒のつぶやきや発言を全体に広げたり、ICTを活用させたりすることで、生徒同士の交流を活発化させ、課題解決のための技の「こつ」などを共通言語化、視覚化させるなどして、相互評価を促し振り返りを充実させた。その後、解決策を踏まえてさらに練習を繰り返し、「分かる」から「できる」喜びを体感させる場も設けるようにした。



6 まとめ

「めあて」と「振り返り」に着目した授業実践の工夫は、体育授業をさらに充実させていく無限の可能性を秘めたものであることを改めて感じる事ができた。各学校での実践においても、「めあて」や「振り返り」の工夫を大切にされた授業をしていくことで、生徒の活動意欲や探究心を高める事ができたとの成果の声が多くあがった。一方、「めあて」の文の作成の仕方や「振り返り」の時間の確保が難しいとの声もあがっている。それぞれ学校の実態に応じて様々な工夫を凝らした実践がなされているため、今後、その情報を共有して、よりよい工夫へと繋げ、自校での実践へと繋げていきたい。

今後、これからの生徒たちに求められる資質・能力を再度整理していくとともに、生徒の将来の姿を念頭に、新学習指導要領保健体育科の目標にも挙げられている「豊かなスポーツライフの実現」に繋がるよう、主体的・対話的な学びを通して、分かる・できるを味わうことのできる授業づくりに宇城郡市中学校体育研究会全体で邁進していきたい。